
sad love

hi

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

s a d l o v e

【Nコード】

N 5 3 7 3 C

【作者名】

h i

【あらすじ】

篠崎辰樹「シノザキタツキ」はTV局のAD。仕事が忙しく恋人の小笹悠香「コザサユウカ」と一緒にいられる時間が少なかった。そんなとき悠香に異変が…！？

0：プロローグ（前書き）

新小説です。もう一方と平行でやっています。

0：プロローグ

なんで僕は気付いてあげられなかったんだろう

君はとても寂しかったはずなのに

なんで君だったんだろう

でも君が選ばれなかったら僕はあの時のままだったのかな

君を悲しませたままだったのかな

なんで僕は君を愛してしまったんだろう

愛していなかったら君も僕もこんな思いしなくて済んだだろうに

でも君を愛することが出来たから

僕は愛の大切さをこんなにも覚えたんだ

君にはいろいろ迷惑かけて

心配させて悲しませて

出来の悪い彼氏だったね

君の気持ち何一つわかってなくて

君は僕のこと考えてくれてたのに

僕は君のためになるようなこと

何一つやってあげられなかった

君の異変にも気付いてあげられなくて

こんな形にならなきゃ気付くことができなかったなんてさ

完全に彼氏失格だよな

君が僕の側にいるのは当たり前だとばかり思っていた

いつまでも僕の隣にいたのだと思ってた

でも離れていってしまった

いつかはこうなるのかもしれない

でも・・・・・・・・・・・・・・・・

早すぎだよ

もうちょっと遅くても

結婚して家庭築いてからでもよかったんじゃないかな

でも出来ればいなくなつてほしくなかった

まだプロポーズしてないよ

結婚してないよ

家庭築いてないよ

君以外を愛せと言われても無理なんだ

君が好きだった

今でも好きだよ

僕は今君にとても

謝りたい

喋りたい

会いたい

0：プロローグ（後書き）

なおしたほうがいいところなど教えていただけたら嬉しいです。

1：出会い（前書き）

お久しぶりです。

1：出会い

俺、篠崎辰樹はTV局のAD。（あ、知ってる？）

俺には恋人がいて・・・

それがめっちゃ可愛いんだ！

マジ俺の自慢の彼女！

ちなみに名前は小笹悠香。

名前まで可愛い！！

俺と悠香が出会ったのは・・・

俺が仕事帰りに近所のBARに立ち寄ったとき

カウンター席にいた俺は少し離れたカウンター席で泣いてる人を見つけた・・・それが悠香だった。

俺はなるべく関わらないように

カウンターの端のほうに座ってた

でもなんか気になって

声を掛けてみたんだ

「あの・・・どうかなさったんですか?？」

そう聞いたら

悠香はびっくりした顔でこっちを見た

でもすぐ下を向いて

「大丈夫です」

と言ってそのまま黙りこくってしまった

俺はその時

「そうですか」

しか言えなくて

流石にヤバいと思って

「こうして出会ったのも何かの縁だし連絡先教えてよ」

悠香はまたびつくりした顔でこっちを見た

でも今度は下を向かないで笑顔で

「いいですよ」
って言ってくれた

その時の悠香の笑顔は眩しくて

とてもさっきまで泣いていた人の笑顔に見えなかった

その笑顔に俺は一目惚れしたんだ

今思うとなんてベタな惚れ方・・・って思えるけど

その時は本気でそこに惚れていた

2・出会い・悠香・（前書き）

138日放置だったらしくすみませんでした

2：出会い・悠香・

「あー最悪」

私小笹悠香

2年間付き合ってた彼氏の
浮気が発覚して
関係を断ち切ってきた

ついさっきフリーになった女です

ムシャクシャしたんで
近くのBARで飲んでます

流石に飲み過ぎたな
って思ってたときには
既に酔ってて

もう保つのは無理だと思い
私はその場で泣き始めた

「あの．．．どうかしたんですか？？」

突然聞かれてびっくりした

聞いてきたのは
知らない男の人で

話したい気分じゃなかった私は

「大丈夫です」
ってそっけなく答えてしまった

でも
この人は何もやってないんだから
八つ当たりしちゃいけない

って思って話しかけようとしたとき

「知り合ったのも何かの縁だし連絡先教えてよ」

この人は凄い
唐突なことを言うな
って思った

いきなり連絡先を聞かれるなんて
思ってたから
凄い驚いたけど

この人ならいいかな
って思えたから

「いいですよ」

って答えた

そしたら

凄く嬉しそうな顔をしたから

なんかこっちまで嬉しくなつて
笑っちゃった／／

それと同時に
もっとあなたのことを
知りたいなつて思つたんだよ

これが

私と辰樹の出会い

もしかしたら

私たちが出会つたのは

運命なのかもね

告白は辰樹からしてくれて

そのときは

ものすごく嬉しくて

出会えてよかったって
心から思った

もちろん今もだけどノノ

それが2カ月前の話

この2カ月で

いろんなことがあったけど

それはまた別の機会に^
^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5373c/>

sad love

2010年10月9日23時09分発行